

令和5年度国際文化交流学科一般入試（前期日程）

小論文

I. 出題意図

経済思想学者である佐伯啓思氏の『近代の虚妄』から出題した。出題部分では、情報社会のなかで、現在進行する新型コロナの脅威をめぐり生じている課題が比較的平易かつ論理的に記されている。解答にあたり本文を正確に理解し、著者の意図を読み解く能力と、著者が提示する視点に基づいて自分の考えを整理し、自分の言葉で記述する能力とが求められる。

[問1] 出題意図

作者の意図を的確に理解した上で、自身の経験や知識をもって、論理的思考に基づいた具体的な論述ができるかについて確認するため、以下の事柄を評価のポイントとする。

- ・具体性をもった論述により「マスメディア」「大衆」「識者」「政治」の関連性が明確に示されている。
- ・文章が論理的に展開されている。
- ・論述内容が独創的である。

[問2] 解答例

専門家は実際には本質的に事実だけを陳述して主観的な価値判断をしないわけではないため、世論や政策決定に不透明さを与えてしまう。その一方で、専門家の主観的な価値判断が政策決定に不可欠でもあるため。

[問3] 解答例

大衆が自身に都合の良い結果だけを受け入れ、それ以外であれば政府を批判し責任を問うこと。